

宇城市の魅力発掘とその効果的な発信について

連携先：宇城市役所

私たちは、宇城市役所で行われている子育て層の定住を目指す取り組みで何が効果的であったか、また子育て層の定住を促す上で効果的な情報発信方法をデータを基に分析し、宇城市役所に提案するという取り組みを行っています。

今後は、SNSなど様々なデータを分析し効果的な取り組みと情報発信方法の発見を目指します。



(飯島研究室)

地域コミュニティの再構築を軸とした空き家の活用について～統計分析に基づいた効果的な施策の提案～

連携先：天草市役所

私たちは天草市役所・株式会社CASEと連携し、地域コミュニティの再構築を目的とした空き家の活用に関する研究を行っています。具体的な取り組みとして、牛深地域への現地訪問、地元高校生や移住者を対象としたアンケート調査などを進めています。これらの活動を通じて、空き家を活用した新しいコミュニティづくりを検討しています。



(飯島研究室)

大学生における臓器提供意思表示向上に向けた普及啓発活動

連携先：公益財団法人 熊本県移植医療推進財団

私たちは、公益財団法人熊本県移植医療推進財団と連携し、大学生の臓器提供意思表示向上を目的とした普及啓発活動を行っています。現在、学内で臓器提供意思表示に関するアンケートを行っています。また、10月には市民公開講座への参加、県大川のグリーンライトアップ、学食での臓器提供意思表示啓発活動を予定しています。



(吉田研究室)

やまが和栗の知名度向上に関する研究

連携先：山鹿市役所

私たちは山鹿市役所農業振興課と連携して山鹿和栗の知名度のための手法について研究しています。主な活動内容は「山鹿和栗スイーツフェアの舞台裏」というテーマで特集記事を作成するため、スイーツフェアに携わる方々へ取材を行っています。これにより他地域の栗との差別化を図り、知名度向上に繋げることがを目標としています。



(井寺研究室)



令和6年度 地域連携型学生研究

活動紹介

空き家所有者への効果的な意識改革に関する研究

連携先：宇城市役所

私たちは宇城市役所と連携して空き家バンクを開設しており、本年は空き家バンクのデータ解析をもとに「売れる空き家」を明確化することを目的としています。そして、空き家を所有し続けるデメリットについてや模型を利用して空き家の改修について知ってもらうイベントの開催を予定しています。



(佐藤研究室)

SNSを活用したローカル・コミュニティの活用

連携先：天草市役所

私たちは、天草地域の若者の地元志向を高め、Uターンを促すことを目的に活動を行っています。本活動では、SNSを活用し、高校生や地元企業の方々に天草に関する情報を発信していただいています。加えて、企業訪問バスツアーを開催し、天草出身の若者が地元への愛着を深めることができるようなコミュニティの形成を目指しています。



(井寺研究室)

外国につながる子どもたちを対象とした地域の日本語教室における取り組みの改善と支援者ネットワークの構築

連携先：熊本市国際交流振興事業団

2022年度より本学と他機関とが共同運営している「おるがったキッズ」（年少者を対象にした日本語教室）には、運営面や活動面において課題が散見されます。本研究グループでは、教室の関係者を対象に調査を行った後、結果をもとに関係者間の円滑な情報共有のためのネットワークの構築、運営方法の改善に取り組みます。



(秋葉研究室)

運動公園の利用促進に関する研究—新たな利用法を通じた魅力発信に関して—

連携先：熊本県スポーツ振興事業団

私たちは、熊本県スポーツ振興事業団の方々と連携し、熊本県民総合運動公園の知名度の向上、来客数増加を目的としてイベントを計画しております。運動公園には大会で使用されている施設以外にも、バラ園やちびっこ広場など日常的に楽しめるエリアが多々あるため、今回の企画を通して魅力を伝えていきたいと思ひます。



(小園研究室)

宇土市網田地区における将来ビジョンの策定と実施

連携先：宇土市役所

JR三角線の網田駅は、県内最古の木造駅舎であり、国の登録有形文化財に登録され、地元のNPO法人網田倶楽部により管理運営されています。今年、駅舎の耐震改修工事中であり、工中であっても駅舎や網田地区の魅力をどのように発信することができるのか、宇土市商工観光課・まちづくり推進課と連携して検討しています。



(柴田研究室)

阿蘇の草原で整う。草原で行うアクティビティが、気分や睡眠の質、認知機能におよぼす効果—室内でのアクティビティとの比較—

連携先：熊本県北広域本部阿蘇地域振興局

現在、阿蘇では人手不足や放牧の減少、草原の活用機会の減少などで草原の手入れが行われないことが問題となっており、草原の維持が困難になっています。本活動では草原の活用機会に注目して、阿蘇地域振興局と連携し草原で行うアクティビティと心身の健康の保持増進の関連性を検証し、草原の新たな価値を見出すことを目指しています。



(松本研究室)